

【出題意図】

近年、音楽コンサートのチケットをはじめとして、マスクやゲーム機などさまざまなモノの高額転売が社会問題となっている。これらの高額転売の原因は、定価が需要と供給によって決まる実勢価格よりも低いために、需要量が供給量を大きく超えていることにある。経済学の観点から、定価を上げれば需要量は減少するために高額転売の問題は解決しそうに思えるが、定価の値上げが十分に進まない現状がある。また、入場券不正転売禁止法に代表されるように、チケットの高額転売を防止するための法規制が実施されているが、効果は十分であるとはいえず、高額転売はいまだなくなっていない。

以上の現状を踏まえると、チケットの高額転売をめぐる問題は、経済学、法律学といった単体の学問領域だけでは解決困難な問題であると考えられ、多角的な視点から、問題の背景を理解し、解決策を考えていく必要がある。このような多角的な視点で問題をとらえる姿勢は本学部が重視していることである。

本問題では解決策を考察する前提として、問題の背景や構造を多角的な視点で整理するとともに、現状の解決策の問題点に関する理解を問うこととした。特に複数の学問分野や視点からの異なる意見を収集して把握する能力（AP1の読解力・AP2の情報収集能力）と、それを文章にまとめる能力（AP1の文章作成能力）を重視して出題した。

【解答例・採点基準】

1

(a) 捜査 (b) 検討 (c) 鑑 (d) 講 (e) 厳守

2

チケットが高額で売買されることにより、ファンはほかのグッズやチケットに使えたはずの資金がなくなってしまう。そのことにより、興行主は定価販売では得られたであろう他のグッズ・チケット売上を失ってしまう。(99字)

3

チケットの転売が生じるのは、チケットのような会場の座席数の制限による供給量が一定の財に対して、需要量が大きく上回っているためである。売り出し価格を高くすると、需要法則により需要量が減っていき、いずれ供給量と一致する。よって買いたいのに買えない状態が解消されわざわざ転売業者から買う必要がなくなるから。(150字)

4

売り出し価格が上がることで、ファン層の手の届きにくい価格になり、気軽に何度も購入できなくなってしまう。そのことにより、ファン層の拡大が阻害されてしまうという課題。（81 字）

5

2013 年度以降相談件数は上昇傾向で 2019 年度にピークを迎えたが、2019 年 6 月に入場券不正転売禁止法が施行され相談件数は減少した。しかし、同年 9 月～11 月に日本でラグビー W 杯が開催され、相談件数は大きく増加した。その後、転売の摘発もあり再び減少した。2020 年度はコロナ禍によりイベントが開催されなくなったため減少したが、2021 年度以降イベント自粛が解消されるにしたがい、再び増加傾向にある。（188 字）

6

チケットの高額転売が生じるのは、定価が需要と供給によって決まる実勢価格よりも安く、供給量に比べ需要量が大きく上回っているためである。経済学的な対策として定価を上げて、需要法則により需要量を減少させることで、定価を実勢価格に近づけていくことが考えられる。しかしファン層の手に届きにくくなり、長期的にファンを増やせないおそれがあり、値上げは進まない。また、興行主の対策として転売されたチケットを無効にしようとしても、興行主は転売の全体像が把握できず監視が追いつかずに難しい。転売チケットの監視については転売を仲介する業者が監視することも考えられるが、それらの業者は高額転売が行われると手数料収入が多く手に入るというメリットがあり、十分な監視ができていない。興行主の他の対策として電子チケットの導入や、入場時の本人確認のための顔写真登録などで転売チケットを見分ける方法や、興行主自らリセールシステムを採用することが考えられる。しかしながらこれらのシステムには追加のコストがかかり、それらはチケットの販売価格に反映される。つまり、チケットの定価が上昇する要因となってしまう、購入者の負担が増えてしまう。法的な対策として入場券不正転売禁止法が施行されたが、転売の反復性や継続性がないと摘発まで至らず、摘発された人数は少なく、高額転売の十分な抑止にはなっていない。（576 字）